

氏名	稲垣 沙緒里
学位の種類	修士（鍼灸学）
学位記番号	鍼修第485号
学位授与の日付	令和6年3月12日
学位授与の要件	大学院規則第30条および学位規程第4条該当
学位論文題目	高齢者の嚥下機能に対する接触型円皮鍼を用いたセルフケアの効果
指導教員	廣 正基

学位論文の要旨

【はじめに】

本研究では加齢による口腔機能・嚥下機能低下に対する早期からの予防的介入法を見出すことを目的に、接触型円皮鍼を用いた経穴刺激による継続したセルフケアが高齢者の口腔機能・嚥下機能に与える効果を検討した。

【方法】

対象は本研究参加前4週間以内に鍼灸治療未受診の65歳以上の高齢者とした。対象除外基準は摂食嚥下障害の原疾患、口頭指示の理解が困難な患者とした。セルフケアで行う経穴刺激は両側の足三里（ST36）と太溪（KI3）、廉泉（CV23）の5穴に長さ0.3mm直径0.20mmの接触型円皮鍼（セイリン株式会社パイオネックス ZERO）を貼付し、2日ごとに接触型円皮鍼を貼り替えるように指導した。研究期間は2023年4月～8月で、セルフケア（接触型円皮鍼貼付）4週間、経過観察4週間の計8週間とした。口腔機能・嚥下機能評価は最大舌圧（MTP）、反復唾液嚥下試験（RSST）、オーラルディアドコキネシス（OD/pa/, OD/ta/, OD/ka/）、2種類の嚥下質問紙（EAT-10、聖隷式）のスコアとし、1.セルフケア前、2.セルフケア後、3.経過観察後の計3回実施した。本研究は明治国際医療大学ヒト研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】

公募の結果5例（女性5名、平均年齢75.0±4.0歳）が研究対象者となった。本研究は研究対象者が少なかったため統計解析は実施しなかった。各評価の介入前後での増減を示す。MTPは増加3例減少2例であった。RSSTは増加1例減少3例不変1例であった。OD/pa/は増加3例減少1例不変1例、OD/ta/は増加3例減少2例、OD/ka/は増加3例減少2例であった。EAT-10の点数は5例減少した。聖隷式嚥下質問紙の回答は変化を認めなかった。

【考察】

研究対象者5例は定期的に歯科受療中であり、適切な歯科治療とセルフケアの併用により口腔機能・嚥下機能が増加した可能性が考えられた。しかし、口腔機能・嚥下機能の変化が乏しい例では、円背等姿勢不良が認められたことから、姿勢を整える運動や嚥下関連筋の運動などを取り入れ検討する必要があると考えられた。